

令和4年度 学校評価

1 学校運営の目標・方針

「自律」「協同」「創造」の精神を培い、自らの将来に向かって果敢に挑戦し、社会に貢献できる人材を育成する。
○生涯を通じて学ぶ楽しさと学び続ける意欲・能力を育成する。
○基礎・基本を確実に定着させ、社会の変化に対応し、「生きる力」を育む。
○生命を尊重する心、他を思いやる心など、心身を鍛える態度を育成し、調和のとれた人格形成を目指す。

2 本年度の重点目標

○生徒、教職員が目標を共有し、同じ方向を向いて、その基礎である校訓の実現化を図り、あらゆる教育活動を通じて活力ある校風づくりをめざす。
○自己の在り方生き方について考えさせ、職業選択に必要な能力と態度を養うとともに、社会人として必要なコミュニケーション能力や課題解決能力や自己管理能力等を育成するためのキャリア教育を推進する。
○生命と人権を大切にし、他者を尊重する文化、多様な文化や価値観を理解し、多様な人々と共に生きる心を育てる教育を推進する。また、基本的なルールを遵守し、役割や責任をもってよりよい社会づくりに向けて主体的に行動する力を育成する。
○保護者、地域社会との連携をさらに推し進め、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。
○教職員が使命感を持ち、主体的な資質向上を図るため、体系的・組織的な研修を推進する。また、全教職員が一致して教育活動に取り組むことのできる体制の構築をめざす。
○教職員が心身ともに健康で、生徒と向き合う時間をしっかりと確保し、教育活動をさらに充実させるために業務改善及び勤務時間の適正化など働きがいのある職場環境づくりに取り組む。
○校内および社会における新たな自然に向けて、感染症対策と生徒の健やかな学びの保障を両立していく。
○生徒の課題に応じた授業の改善を目指し、タブレット端末をはじめとするICT機器をこれまでの実践と組み合わせた効果的な授業作りに取り組む。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○評価「1」(わからない把握していない)が保護者の評価を著しく下げている。(いじめ・人権項目)
○評価5～2の段階評価(とてもそう思う～まったくそう思わない)と評価「1」(わからない把握していない)を分けて集約したかどうか。
○経年比較するためにも過去の評価を上記の「1」を別に集計する方法で再評価してもよいのではないか。
○紙を使ったアンケートから電子媒体を用いたアンケート(ミマモルメ等)に転換してもいいのではないか。

【生徒・保護者・教員】

A:5.0～4.2
B:4.1～3.3
C:3.2～2.4
D:2.3～0

5 総合的な学校関係者評価

○保護者の学校への興味関心を向上させる手立てを考えた。また、ミマモルメ等ICTの活用を促進してはどうか。
○アフターコロナ時代を見据えて、保護者や地域の方に実際に学校を見てもらう場を設けてはどうか。特に地域の方々にもっと今津高校を知ってもらい必要があるのではないか。
○多岐にわたる今津高校の魅力発信のチャンネルを考えてはどうか。来校してもらいやすい環境の設置やHPの更なる有効活用など。
○総合学科発表会は本当に素晴らしい。進路指導も大切だが、高校生はいろいろな体験を積むことが大切。
○保護者に大学進学の情報や1・2年次の早い段階から伝えてもいいのではないか。
○補習に関する評価が低いのは、塾の夏季講習との比較の中で選択していないからかも知れない。
○教員全員にタブレット端末を公費で是非支給するべき。
○今津高校の戦力アップのためには、海外研修旅行の実施も一つの方策ではないか。
○今年度の教員が下がっている原因の一つに、今津高校が他の普通系高校等と比較して、コロナ禍でも本校独自の活動を維持してきたということがあっているのではないか。
○人権の取組に保護者が参加する方法として、事前学習での家庭での話し合いの場を設定してはどうか。
○在校生が明確な目標を持ち、これからの自分の設計図を描くために、卒業生の講演等を企画してはどうか。

【総合評価】

A:5.0～4.0
B:3.9～3.0
C:3.4～3.0
D:2.9～0

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

観点	No.	質問項目	生徒評価 1年次 200名		生徒評価 2年次 185名		生徒評価 3年次 220名		生徒 総合 評価 605名		段階	保護者評価 1年次 181名		保護者評価 2年次 121名		保護者評価 3年次 65名		保護者総合 評価367名		段階	教員評価 43名		総合 評価	総合評価 段階	担当	評価	改善策など		
学校生活	1	本校の校訓を知っている。	4.0	B	3.7	B	4.0	B	3.9	B		3.6	B	3.4	B	3.5	B	3.5	B			3.8	B		総務	[総務]3年次は進路受験面接の関係で暗記している可能性があるが、下位年次は、感染症対応による集会の減少とともに、校訓に触れる機会が減っている。	[総務]集会などで周知を図る。		
	2	学校に来るのが楽しい。	3.9	B	3.8	B	3.9	B	3.9	B		4.2	A	4.1	B	4.4	A	4.2	A			4.0	A		各年次	[1年次]全体的には楽しく過ごせているように感じられるがすべての生徒ではないところが残念である。 [2年次]進路に対して意識の差があり、熱心に取り組む生徒と取り組まない生徒がいる。 [3年次]行事の自粛や縮小が続く中、遠足や球技大会などを行うことができた。	[1年次]今年度同様、生徒との個人面談や夏季の三者面談、その他あらゆる機会をとらえて、生徒の実態把握、理解につとめる。 [2年次]友人関係も良好で行事も楽しく実施でき、将来の進路のために学習にも熱心に取り組んでいるようにしたい。 [3年次]今年度は3年次以外の先生方の理解もあり、行事等で臨機応変に対応することができた。また、生活に悩みの抱える生徒に対応できるように年次の教員で協力していきたい。		
	3	学校での出来事を家庭でよく話をする。	3.8	B	3.9	B	3.6	B	3.8	B		3.9	B	3.9	B	4.2	A	4.0	B			3.9	B		年次	[1年次]家族間で意思の疎通が図られていることは喜ばしいことであるが、各家庭で状況・環境が異なるため、一律に家庭に立ち入る指導を行うことはしない。 [2年次]部活動に参加している生徒は帰宅が遅く、学習意欲に欠ける生徒もいるので、家族で食事をとれないうえに、生活リズムが崩れている生徒もいる。 [3年次]進路に関する意識の差が多くなったと思うが、家庭でしっかりと話をしている生徒が多い印象である。	[1年次]年次通信、メール送信などを話題としてもあればありがたいことではあるが、家庭の問題には立ち入らない。 [2年次]年次通信で行事予定を案内しているため、時間がない場合、休日を利用して会話をしてもいい。 [3年次]年次通信や進路通信を発行し、学校の様子や、リアルタイムの進路情報を取り上げて話題を提供する。		
	4	年次通信、PTA広報誌など学校からの配布物を保護者に渡している。	4.0	B	3.7	B	3.6	B	3.8	B		3.5	B	3.7	B	3.8	B	3.6	B			3.6	B	3.7	B	年次	[1年次]保護者あての配布物を親に渡すかどうかに関しては、家庭の嫌の問題であるため、確認はしていない。 [2年次]保護者から行事予定が掲載されているので「ありがたい」と聞いているが、実際は全家庭に行き渡っているかは不明。 [3年次]学期ごとに年次通信を発行した。	[1年次]必要な書類に関しては、保護者向けメール送信にて生徒に配布したことを伝えてきた。 [2年次]重要な配布物があるので、担任が一言付け加えて配布するようにする。 [3年次]今年度は3年次以外の先生方の理解もあり、行事等で臨機応変に対応することができた。	
教科指導	5	学校はわかりやすい授業を行っており、基礎学力が定着してきた。	3.6	B	3.3	B	3.5	B	3.5	B		3.3	B	3.1	C	3.7	B	3.3	B			4.0	B	3.5	B	教務	[教務]教員と生徒・保護者との間で大きな認識の違いがみられる。	[教務]今年度はタブレットの利用方法等授業改善のヒントを得るために、他教科の先生方の授業も見学するような研修を行った。今後も継続して行う。	
	6	家庭学習の時間が昨年より増えている。 (H29家庭学習を2時間以上確保できている)	3.2	C	3.3	B	3.7	B	3.4	B		2.9	C	3.2	C	3.9	B	3.2	C					3.3		教務 年次	C	[教務]生徒の学習習慣の確立とともに、意識付けと興味関心への関連付けが必要である。 [1年次]46回生より、全員がタブレット端末を所持している。学習効果を上げるための効果的な使用法を模索し続けていきたいと考えている。 [2年次]進路に対して意識の差があり、熱心に取り組む生徒と取り組まない生徒がいる。 [3年次]3年次になり、積極的に学習に取り組む姿が多く見られた。補習等の教科指導を行い、面接指導や小論文指導にも積極的に取り組んだ。	[教務]授業と家庭学習のリンク、授業の始め方や終わりを工夫するなどの授業改善を推進する。 [1年次]今年度同様、生徒との個人面談や夏季の三者面談、その他あらゆる機会をとらえて、生徒の進路希望の詳細な把握とともに、進路実現に向けた指導をより強化していく。 [2年次]実力考査後など担任からの話や年次通信で伝えられているが、理解しない生徒がいる。今後、進路指導部と協力してより学習意欲を高めたい。 [3年次]受験を前にして家庭学習の時間は増えている。学校の自習室を開放し、過去問指導や面接指導・小論文指導を充実させた。
	7	学習意欲が高まっている。	3.4	B	3.5	B	3.5	B	3.5	B		3.0	C	3.3	B	4.0	B	3.3	B			3.5	B	3.4					
	8	講習・補習・個別指導などを積極的に受けている。	3.0	C	2.7	C	2.9	C	2.9	C		2.7	C	2.8	C	3.4	B	2.9	C			3.9	B	2.9	C	教務 年次		C	[教務]教員と生徒・保護者との間で大きな認識の差がみられる。 [1年次]各々の進路に向けた取り組みを実践してきた。 [2年次]週1回、国語の小テストを実施。夏休みに国語、英語、数学の補習を実施。 [3年次]長期休みの講習や個別指導、自習室利用などを行った所、熱心に取り組む生徒が多かった。外部の塾や自習室・図書館などを利用している生徒も多い。
	9	部活動と家庭学習の両立ができている。	3.6	B	3.6	B	3.6	B	3.6	B		3.5	B	3.6	B	4.2	A	3.7	B			B	B	3.6	B	生指 各年次	B	[1年次]部活動と学習活動がバランスよく行われていると感じる。 [2年次]担任が面談を通して個人に指導。年次通信には読まず学習の必要性を訴えた。 [3年次]3年次は最後の部活動に熱心に取り組んでいる生徒が多かったが、さすがに受験勉強への取り組みも本腰を入れ始めていた。	[1年次]来年度は学校の軸軸学年としての活動が行えるように支援していきたい。 [2年次]外部からの情報を積極的に活用し、進路指導部との連絡を密にして、3学年共通して有効に実施できる進路指導を構築していきたい。 [3年次]授業時間を大事に考えて、部活との両立を意識づけしていく。
進路指導	10	多様な選択科目の中から自分の進路・適性に合ったものが選択できている。	4.1	B	4.1	B	4.0	B	4.1	B		3.7	B	3.9	B	4.4	A	3.9	B			3.9	B	4.0	A	教務	[教務]多くの科目が設置され、多様な選択ができることが、肯定的に捉えられている。	[教務]新学習指導要領が始まり、生徒の進路目標、興味・関心や時代の変化に対応した科目が設置できているか、常に検討していく。	
	11	進路に関する適切な情報が提供されている。	3.8	B	3.7	B	4.0	B	3.8	B		3.0	C	3.2	C	4.0	B	3.2	C			3.8	B	3.6	B	進路	産社と進路集会等を通じて進路学習を行った。	進路閲覧室の積極的な利用を呼びかける。次年度も、3年次を中心として進路集会を中心として丁寧に説明する。	
	12	模擬試験等を継続的に受け、事後の学習に生かしている。	3.4	B	3.3	B	3.2	C	3.3	B		3.2	C	3.2	C	3.8	B	3.3	B			B	3.8	B	3.3	C	進路 各年次	[1年次]適切な時期に適切な模試を受けることができていない。 [2年次]学期ごとに実力テストを実施。職業・志望校研究などのHRを充実させ、実力テストの重要性を伝える。 [3年次]学校で行う進路模試は、過去問指導や事後分析などを行った。GTECの希望受験は外部で行った。受験に使った生徒も多い。 [進路]教科や担任の指導の参考として進路模試の分析を職員会議で提出している。	[1年次]適切な時期に適切な模試を受けるとともに、事後学習に関しては、解答・解説を利用し知識とともに学習意欲を高める指導を行っていく。 [2年次]模試の結果から学習の進捗を確認し、自己の進路を実現することができるように指導を充実させる。 [3年次]受験後の自己採点は必ず提出させた。解答解説書を利用して、問題の復習を徹底するようにする。これもスタサブ等のアプリを利用するとさらに充実すると思う。 [進路]アプリを使って事後の利用を生徒に推進する。
	13	進路校外学習などを通して、職業観・勤労観が身に付いた。	3.9	B	3.7	B	3.5	B	3.7	B		3.2	C	3.3	B	3.7	B	3.3	B			B	3.9	B	3.6	B	推進	(推進)今年度は3年ぶりに1・2年次ともに7月に進路校外学習を実施することができた。大学では実際に模擬授業を体験し、学生との交流や施設見学から、学びに対する意識を高めることができた。	(推進)1年次の進路校外学習では例年、大学案内やキャンパスツアーだけでなく、模擬授業も実施している。オープンキャンパスの時期とも重なるため、訪問先を確保することが難しい。また、生徒が行きたい大学とのミスマッチが生じている。訪問した年次担当者からはこの時期は模擬授業よりも多くの生徒が目標とするような大学を訪問すべきではないかと意見をいただいたため、来年度以降は年次と相談しながら模擬授業にこだわらず訪問先を決定する予定である。
	14	「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」など生き方について考える機会が多い。	4.1	B	3.9	B	3.7	B	3.9	B		3.0	C	3.3	B	3.5	B	3.2	B			B	4.2	A	3.6	B	推進	(推進)卒業生のアンケートより、進路決定や進路実現に影響を与えたのが産業社会と人間や2年次に行った「進路ガイダンス」2年次秋から実施した「課題研究」であると答えた人が多かった。また、1年次生が自分の進路や考え方などに大きな影響を与えたのは多くの生徒が「職業人インタビュー」であると答えた。総合三科目の学びは、総合学科の根幹となるものであるため、より主体的な学びの機会となることが必要である。	(推進)総合三科目のねらいや本質について教師自身も十分に理解し、共通認識を持って授業の指導に当たることが大切である。単元ごとに生徒に身につけ期待したい力を担当者や確認しながら指導にあたりたい。また、総合三科目の授業の様子や取り組んだ生徒の声などを保護者に伝えることが重要だと感じた。
生徒の自主性	15	総合学科での学習を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。(H29「総合学習」や「課題研究」を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。)	3.8	B	3.8	B	3.6	B	3.7	B		3.7	B	3.3	B	3.6	B	3.6	C			4.0	B	3.6	B	推進	(推進)1・2年次はグループで、3年次は個人で課題解決型の学習に取り組んでいる。年次が進むにつれ着実に力をつけていると考えるが、生徒たちがより積極的に取り組むよう支援が必要である。	(推進)来年度からは2年次「総合的な探究の時間」の単位数が1単位から2単位に変更となる。生徒にとって充実した時間にするため、業者を通して大学の先生に来ていただき、アドバイスをもらうなど探究学習の中でも最も大切な「問いを立てる」時間を改善していきたい。	
	16	生徒会活動やホームルーム活動では主体的に活動している。	3.7	B	3.5	B	3.4	B	3.5	B		3.0	C	3.0	C	3.5	B	3.1	B			3.7	B	3.5	B	生指	[生指]各活動において、誠実に取り組んでいるが、行動力に欠けている部分が見られる。	[生指]問題解決に向けて、情報を集め、合理的にコミュニケーションを取っていけるような働きかけが必要であると感じた。	
	17	体育大会等の行事に積極的に取り組んでいる。	4.2	A	4.1	B	4.1	B	4.1	B		3.7	B	3.6	B	4.3	A	3.8	B			4.0	B	4.0	A	生指	[生指]前向きに取り組んでいた。	[生指]普段の生活の延長線上としての学校行事であるという認識をさらに持てるように、普段の取り組みが大切であることを日々伝えていきたい。	

生活習慣	18	集会などを通して、学校や学年の生徒指導方針がよく説明されている。	3.9	B	3.6	B	3.8	B	3.8	B	3.0	C	3.0	C	3.6	B	3.1	C	4.1	B	3.5	B	生指	[生指]拡大生徒指導部会等を行い、教員の共通認識を確認する機会を増やしたが、生徒への働きかけの機会は増やしていく必要があると感じた。	[生指]各年次の気になる生徒の情報交換をしたり、生徒への働きかけを確認する、定例の生徒指導部会を開いてはどうかと考えている。
	19	挨拶・時間厳守・携帯電話の使い方などの基本的な生活習慣が身に付いている。	4.2	A	4.2	A	4.0	B	4.1	B	3.7	B	3.6	B	3.8	B	3.7	B	4.0	B	3.9	B	生指	[生指]校内や大人の前では概ね取り組めているが、TPOに応じて自分の行動をコントロールできるようにしていきたい。	[生指]西宮今津高校生として、一人の人間として今何をすべきか考えて行動できるようになれば、習慣が変わるのではと思うので、日々を大切にしていけるような働きかけをしていく。
人権	20	保健室・教育相談室など、悩み事を相談できる体制が整っている。または、親身になって相談に乗ってくれる先生がいる。	3.8	B	3.5	B	3.8	B	3.7	B	2.9	C	2.8	C	3.6	B	3.0	C	4.2	A	3.4	C	保健	〈保健〉ほけんだよりやカウンセリングの案内を発行し教育相談体制について発信してきたが、家庭まで周知されていない可能性がある。	〈保健〉生徒が悩み等を気軽に相談できる教育相談体制の整備に努め、カウンセリングマインド研修で教員の生徒理解を高められるよう工夫していきたい。
	21	いじめのない学校づくりが進められている。	4.2	A	4.0	B	4.0	B	4.1	B	2.9	C	2.7	C	3.0	C	2.9	C	4.3	A	3.6	B	生指	いじめアンケートの実施、いじめ対策委員会の開催等、組織全体で動くことができた。	相談しやすい環境づくり、他人を思いやる人間関係作りをさらに進めていく。
	22	色々な授業や行事を通じて、命と人権を大切にする教育が行われている。	4.3	A	4.1	B	4.2	A	4.2	A	2.9	C	2.8	C	3.1	C	2.9	C	4.0	B	3.7	B	人権	[図書人権]今年度は特に「在日外国人問題を通して民族共生・他文化共生について考える」を年間テーマの中心として、7月には映画「焼肉ドラゴン」を通して日本の中での歴史を、11月には在日の外国人の方に講演をさせていただいて、考える機会を作った。また、3年次では労働問題学習講義のHRを通して人権に関わる知識も学んだ。それぞれの活動の事前・事後指導に工夫を加えていきたい。	[図書人権]本校では毎年、テーマを設定し、それに即した映画鑑賞と講演会を実施する形式で人権教育を行っているが、それ以外にも、日常生活の中での人権侵害に関わる問題も考えられるためインターネットでの問題を考えるなどは各年次で取り上げている。ただ、時代ともに扱う人権問題が大変多くなり、その中からどれくらいの問題を扱い、どのように指導していくかについてさらに検討を重ねていきたい。
新型コロナ対策	23	新型コロナウイルス感染症対策等について、マスク着用やうがい手洗い消毒など感染予防に取り組んでいる。	4.4	A	4.4	A	4.3	A	4.4	A	3.8	B	3.7	B	4.1	B	3.8	B	4.0	B	4.2	A	保健	〈保健〉マスクの着用や手洗い消毒等の感染予防対策を引き続き実施した。また、感染予防を一人一人の「マナー」と言う観点も加えて実施するようにした。授業内では常時換気をお願いした。	〈保健〉5類に変更になり今後行事など制限がなくなる中で、多くの人が移動する場面などで「安心・安全」に参加できる対策を講じて感染対策が出来るよう努めていきたい。